



子どもたち 先生方の笑顔のために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和5年5月24日発行

第4号

中信教育事務所

ご意見はこちら



←過去の「共に歩まん」はこちら

共に
学ぶ

知って、感じて、語り合って 研究推進の見通しをもつ ～第1回研究推進講座～

子供たちの笑顔のために、校内の先生方と共に歩もうとする研究主任の先生方が集った総合教育センターの講堂。研究主任歴は1年目から5年目以上と様々でしたが、「自校の研究推進」と「探究する授業」について語り合い、会場は熱気に包まれました。

構えず、継続的に
1年間寄り添うために…



研修Ⅰ

「自校の研究推進」の充実に向けて

冒頭の指導主事によるポスターセッションでは4つのブースを設け、研究主任の先生方にその中から2つを選択していただきました。必要感に応じて自分で選択できる形が好評でした。熱心にメモをとる姿、思わず質問する姿、隣同士で対話する姿が見られ、主体的な学びとなっていました。

授業者の意図が最も伝わる指導案づくりや、授業者の頑張りを校内に位置付けることを意識していこう！

各校の取組や課題についての意見交換では、研究推進の方法だけでなく、「目の前の子供たちのどんな姿に出会いたいか」「そのために教師にできることはないか」など、教育の本質にまで対話を深めていたグループもありました。



参加者の声
学びの改革へのチャレンジを勇気を出して行えるかどうかが私たちに求められている役割だと思ふ。

研修Ⅱ 「探究する授業」について

長野県教育委員会が令和5年度 教育課程・学習指導改善の3つの重点の1つに挙げている「探究する授業」について語り合いました。

参加者の声

- ・子供のワクワク感を大事に授業に臨みたいと思いました。そして、私たちもワクワク感をもたないと、子供もワクワクしないと思うので、教材研究の大切さを改めて感じました。「教える」という意識を変えて、「一緒に考える」授業にしていくことで、子供も教師もワクワク感をもち、探究する授業につながっていくと思いました。
- ・子供は「やってみたい」と思うと、自ら学びを深めていきます。教師が誘導することを我慢し、子供と並んで同じものをまなざすことが大切だと思いました。

研究主任という同じ立場の先生方が、実践についての悩みなどを語り合うことで、研究推進の見通し、何のために研究を行っていくのかを確認することができたようだね。それぞれの学校でも、授業について語り合う機会を大事にしていきたいね。

